

御所見地区（ふじみ号）の路線再編計画

目 次

1 はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 1
2 地元住民及び関係自治会との意見交換の実施	・ ・ ・ ・ ・ 2
3 御所見地区再編（案）	・ ・ ・ ・ ・ 4
4 路線再編の進め方	・ ・ ・ ・ ・ 9
5 バス利用促進に資する付帯的な施策の検討	・ ・ ・ ・ ・ 10

第 5 回 藤沢市地域公共交通会議

2014 年 3 月 26 日（水）

藤 沢 市

1. はじめに

H17年に導入した「ふじみ号」の利用者数は、1便あたり5人を下回る程度となるなかで、長後駅西口から用田辻を経由して宮原南に至る系統（長17系統）についても用田辻以南の利用者が少ないことから、今後利用が進まない場合には、路線の廃止も含めた対応が必要となるとの考えをバス事業者より示されました。

このため、御所見南部の公共交通をいかにして維持すべきかについて平成24年12月にアンケートを実施し、その結果を踏まえ再編案を作成し、周辺施設利用者の意向の調査や、乗込み調査等の複数の調査を行った結果についてとりまとめ、これらの調査結果をもとに、路線再編イメージを次ページのように2案作成してまいりました。

第4回藤沢市地域公共交通会議（1月21日開催）以降に、地元住民及び関係自治会と意見交換をしてきており、そこで合意を得た結果について報告を行います。

なお、4回藤沢市地域公共交通会議以前の主な調査は、次のとおりです。

■ふじみ号および長17系統及び周辺路線の再編に向けた主な調査

- ①御所見南部地域のバスに関するアンケート調査（2012年12月実施 2,645票回収）
⇒地域住民の意見として、ふじみ号の利用等の実態、湘南台直通系統を求める声、御所見中心地区と御所見南部をつなぐ路線の運行を求める声等を把握
- ②御所見市民センター来訪者へのアンケート調査（2013年7月5日実施、44票回収）
⇒御所見地区中心部へ来訪する方の路線再編への意向の把握
- ③現在のふじみ号、長17系統利用者へのアンケート調査（2013年7月10日実施、132票回収）
⇒利用区間や利用頻度、再編に対する意向を把握
⇒廃止を予定するバス停を利用している方については、再編後の意向を把握
- ④御所見地区高齢者団体へのヒアリング調査（2013年9月11日実施）
⇒御所見地区中心部へ来訪する方の路線再編への意向の把握
- ⑤中里小学校区での利用意向調査（2013年9月27日回収、168票回収） ※ふじみ号のみ
⇒中里小学校区の周辺の地区での利用意向を把握（通学での利用の可能性など）
⇒新たに路線を設定することで想定される利用者数を把握

2. 地元住民及び関係自治会との意見交換の実施（2014年3月に実施）

次ページの2つの路線再編ケースを示し、地元住民及び関係自治会と連携するなかで、「御所見南部のバス路線再編（案）の意見交換会」を2日にかけて行いました。なお、意見交換にあたりまして地元の方と事前に調整させていただいた結果を踏まえ、行政側としてケース2を推奨することをお話しました。意見交換の結果は以下の通りです。

日 時：3月10日（月）午後7時～ 午後8時40分

会 場：御所見市民センター 第2談話室

参加者：22名

<主な意見>

- ・瀬郷中島のバス停が廃止されるのは高齢者、障害者にとって厳しい
⇒宮原のバス停を利用することで、了解。
- ・ふじみ号は車イス利用者にとって狭いので、直通の大型化は歓迎
- ・長い期間議論しているが、結果はいつ出るのか。
⇒本日の結果を受けて、9月頃の再編予定を回答。
- ・ふじみ号は、土曜の14時、15時くらいに運行がない。
⇒バス事業者と調整する。
- ・サイクル・アンド・バスライドは支持する。コンビニの敷地等の利用も良い
⇒市の関連用地以外については、今後調整させていただく。
- ・サイクル・アンド・バスライド駐輪場施設は、環境悪化につながる
⇒道路に沿って設け、ドライバーの目につく範囲に配置する。
- ・サイクル・アンド・バスライドの防犯はカメラを設置するのが良い
⇒管理ができない。
- ・湘南台駅のバス停は
⇒笹久保経由綾瀬車庫行き（湘20系統）と同じ駅から近い乗場での対応を予定する。

日 時：3月11日（火）午後7時～ 午後8時40分

会 場：御所見市民センター 第2談話室

参加者：14名

<主な意見>

- ・長後から新宿に通勤している。用田から長後に行く便数を考えるとケース2も通勤には厳しい
⇒笹久保行きと併せてバス事業者へダイヤを設定するよう依頼する。
- ・横浜に通勤している。ケース2が便利。夜の便は22時まで、2～3便欲しい
⇒バス事業者と調整する。需要に応じて対応することになる部分もある。
- ・長後～用田～宮原～湘南台駅のルートはできないか
- ・待機場を設けて用田辻どまりでよいのではないか
⇒道路の問題、車両の運用の問題等で、難しい面がある。
⇒道路の問題、車両の運用の問題等で、難しい面がある。

ケース2で取り組むことで地域住民と合意が得られた

3. 御所見地区再編（案）

<長17系統（長後駅西口～宮原南）、ふ01～03系統（慶応大学～光友会入口～慶応大学）>

概要：全ての系統を廃止

<湘南台駅～綾瀬車庫の新系統>

概要：地元の方から希望が多くあった湘南台直通路線を新設し、従来から利用のあるエリアを経由する。通勤・通学等の日常的な利用に配慮して便数を朝夕に多く確保し、終車を遅くする案

便数等：湘南台直通路線 34便（概ね 30分～1時間間隔, 6～21時台）

課題：現在のふじみ号のルートで、新設路線でカバーできないエリアが多い

✓再編案による確認事項

- 湘南台駅～綾瀬車庫を結ぶ新系統が導入される
- 上記に伴い、長17系統、ふじみ号の廃止および廃止となるバス停が生じる



図-1 湘南台駅～綾瀬車庫の新系統

○新設系統

新設系統	湘南台駅西口～慶応大学～光友会入口～用田辻～綾瀬車庫
------	----------------------------

○廃止系統

長 17 系統	長後駅西口～用田辻～宮原南	
ふじみ号	ふ 01 系統	瀬郷東町・御所見総合クリニック(慶応大学発)
	ふ 02 系統	宮原・御所見総合クリニック(慶応大学発)
	ふ 03 系統	御所見総合クリニック・宮原(慶応大学発)

○廃止区間

- ・瀬郷公民館～御所見総合クリニック～打戻大仲 : 3.1 km
(廃止バス停: 瀬郷東町 藤沢御所見病院 御所見総合クリニック
瀬郷中島 瀬郷広町 西谷戸)
- ・宮原～御所見総合クリニック : 0.5 km
(廃止バス停: 御所見総合クリニック)

○廃止バス停

廃止区間以外の廃止バス停

- ・荒井北
- ・盛願寺前
- ・打戻二ノ町



部分詳細 (次頁)

図-2 路線・系統図 (広域)

✓再編にあたっての留意事項

湘南台駅～綾瀬車庫の新系統の運行にあわせ、以下のポイントに配慮することで、御所見地区の利便性確保を目指します。

●留意事項1

地区内を運行する既存バス路線（湘20系統[※]等）に配慮したダイヤ設定を行うことで、用田辻近傍の方が、利用する路線を選択できるようにします。

※湘20系統は湘南台駅と綾瀬車庫を用田辻や御所見市民センターを經由して運行する既存バス路線です。用田辻バス停では湘南台駅方面、綾瀬車庫方面それぞれ一時間に2本程度、一日30分程度の運行があります。用田辻バス停において、新系統と湘20系統とバランスのとれたダイヤ設定とすることで、用田辻近傍の方が、利用する路線を選択できるようになり便利になります。

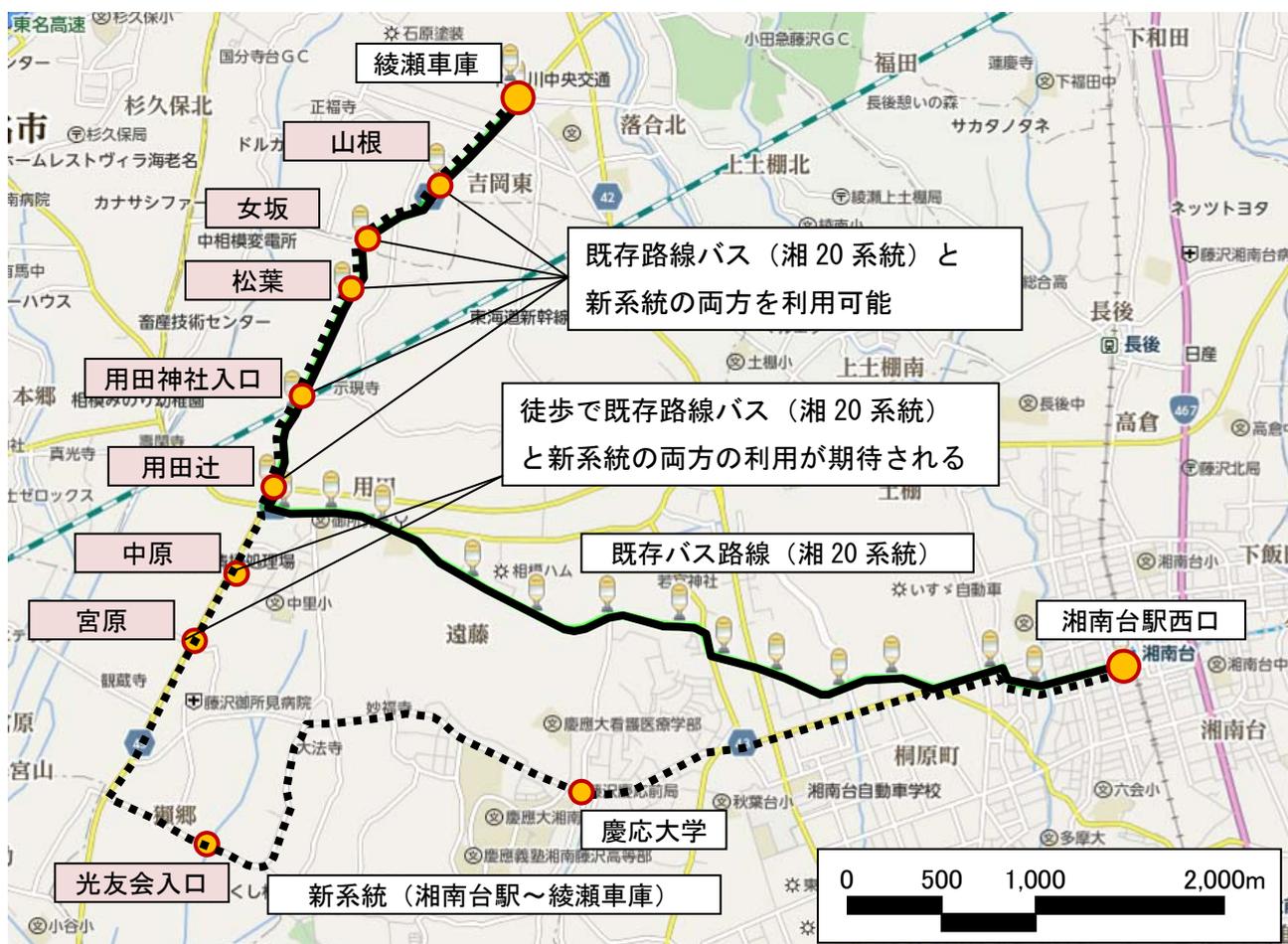
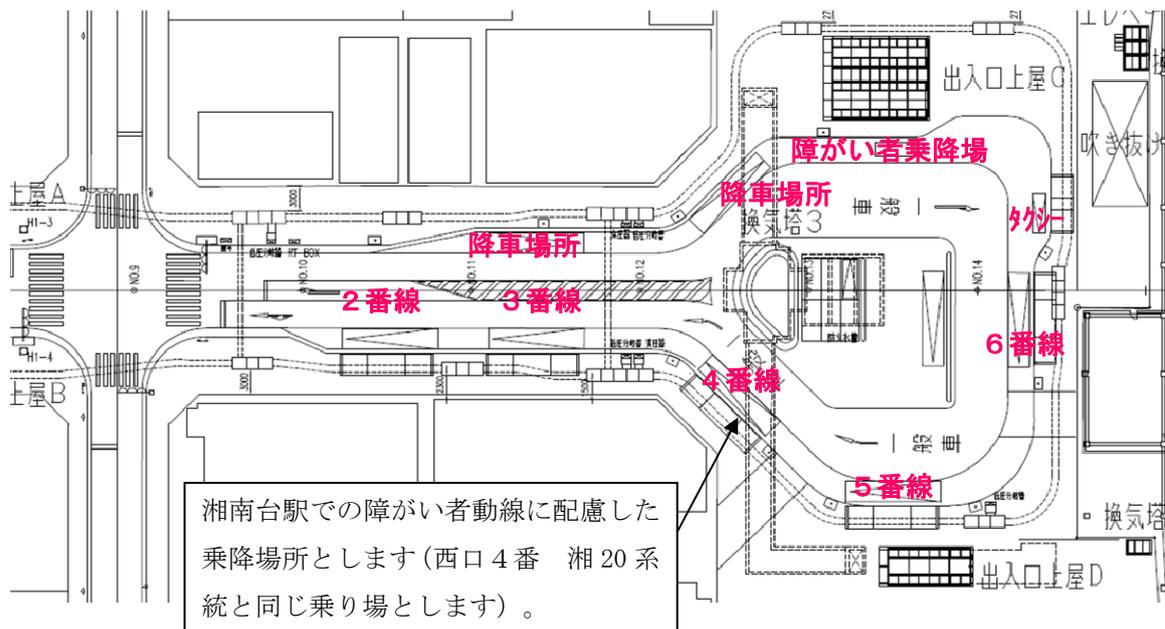


図-4 湘南台駅～綾瀬車庫の新系統と既存路線バス（湘20系統（湘南台駅～綾瀬車庫））

●留意事項2

湘南台駅での障がい者動線に配慮した乗降場所とします(西口4番 湘20系統と同じ乗り場とする)。



●留意事項3

朝夕の便数を用田辻付近の利用ピークを考慮して増やします。

●留意事項4

パターンダイヤ(一定の間隔で周期的に運行されるダイヤ)を採用して、分かりやすく覚えやすい運行を行います。



路線変更の手続きの必要性

運行している路線バスのルートを変更するには、道路運送法に基づき、バス事業者が事業計画を含む申請書を国へ提出し認可を受ける必要があります。

4. 路線再編の進め方

(1) 関係者の連携

当該地域の路線の利用が進まず、一部の路線の存続が難しい状態に陥ったことは、関係者間の連絡、連携が不足していた点も挙げられます。

このため、再編に向けた当該地域の路線維持に関しては、次のような関係を維持して取組みを進めていきたいと考えております。

① 交通事業者

- ・再編にあたっての利用しやすいダイヤ。湘南台駅を決まった時間に出発、到着する。
- ・路線の利用者数等の情報を定期的に関係者に提供し、路線の課題の事前周知に努める。
- ・行政と連携して、利用促進に資する活動を行う。

② 地元住民

- ・今後、当該地域のバス利用が進むよう地元へのバス情報の周知等について関係者との協力を行う。
⇒意見交換会での、コンビニをサイクル・アンド・バスライドの駐輪場として利用できるか地元関係者と調整しながら進める。
- ・バスの利用を促進する。

③ 行政

- ・バスを利用しやすい環境の整備を行う。(情報提供、施設整備)
※後述する「8. バス利用促進に資する付帯的な施策の検討」に記載。
- ・公共交通の利用促進につながるモビリティ・マネジメントの活動を推進する。

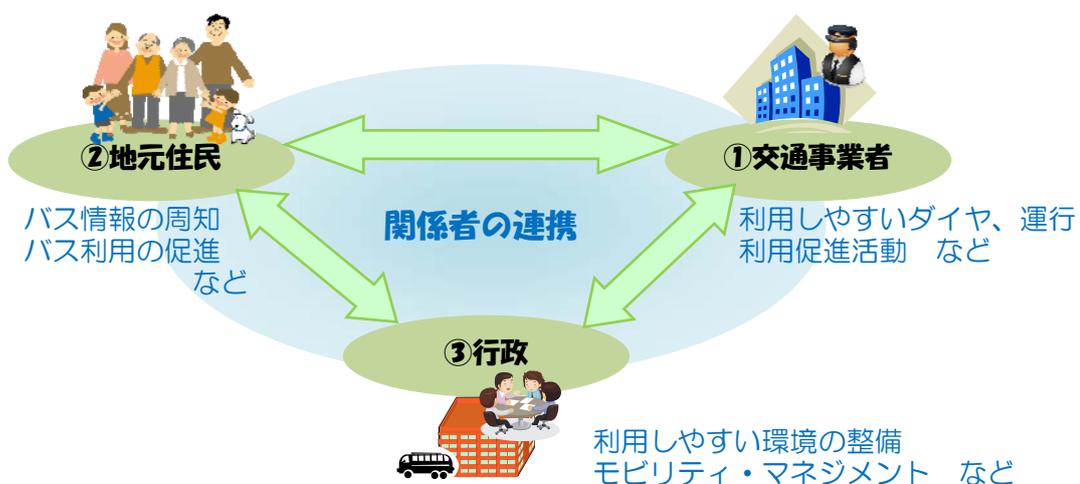


図-5 関係者の連携

5. バス利用促進に資する付帯的な施策の検討

路線再編に向けて、バス利用促進に資する施策として、次のようなものを検討してまいります。

(1) サイクル&バスライド駐輪場の整備

御所見地区は、平坦な地形であることから、自転車が利用しやすい環境をバス利用の拡大に生かすことも考えられます。具体的には、バスの基幹軸となる用田周辺と今回再編を伴う湘南台駅直通バスルート周辺に自転車駐輪場を設けることで、自転車が利用しやすい環境を整え、バス利用圏域の拡大を検討します。

既に実施された地域での整備イメージは次のとおりです。



写真-1 サイクル&バスライド駐輪場

<サイクル・アンド・バスライド想定箇所>

サイクル・アンド・バスライド想定箇所は、民間との連携も含めて次のような位置としております。

既存のバス停が利用できなくなるとこへの対応も考慮した対応としております。

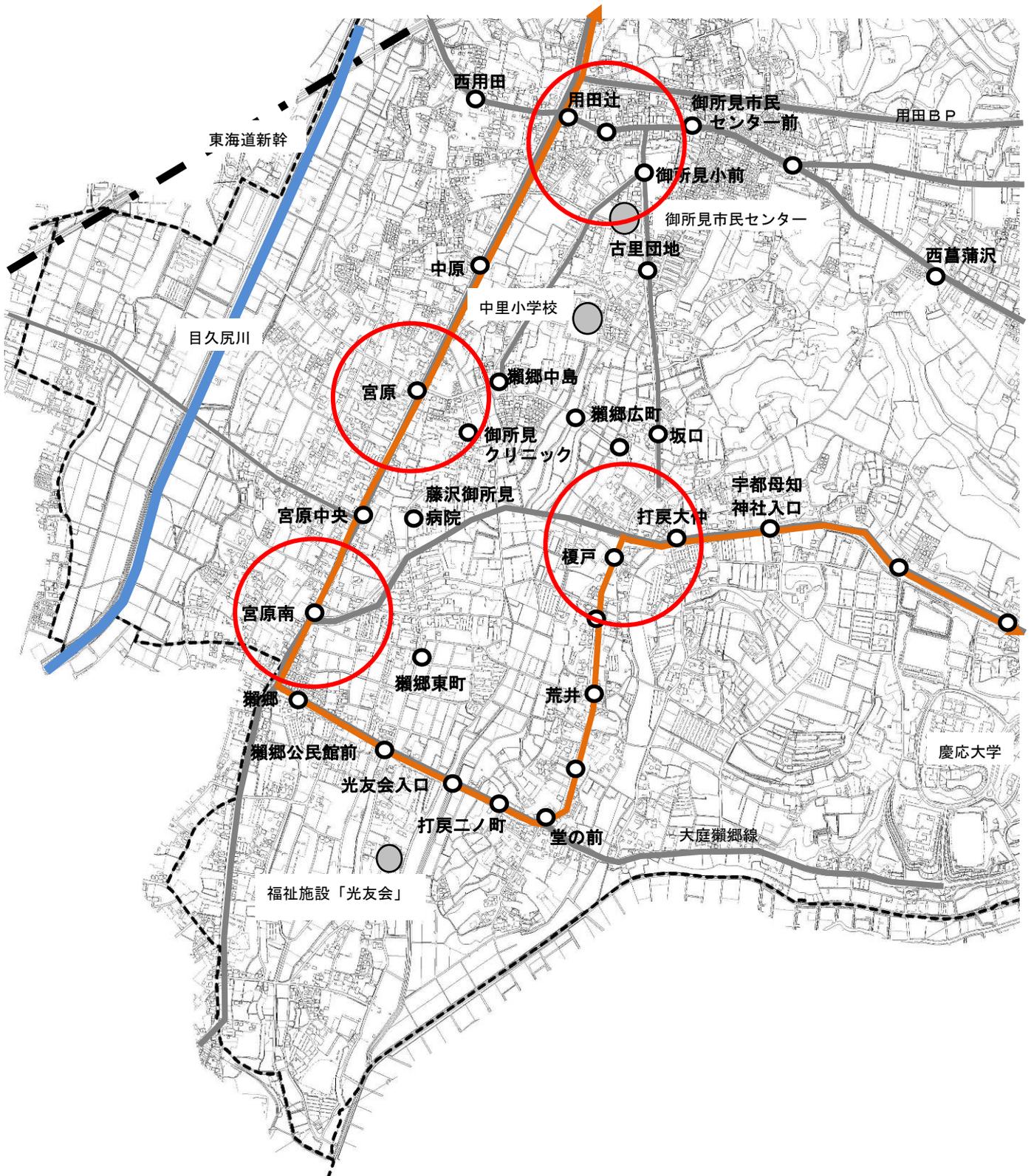


図-6 サイクル・アンド・バスライド想定箇所

(2) 携帯型バス時刻表、家庭掲示型時刻表、バスルート案内の作成

バスの運行情報の提供がバス利用に資するものとして、バス時刻表やバスルート案内を作成します。取込む情報として次のようなものを予定しております。

- ① 路線情報
- ② 運賃情報
- ③ 路線ダイヤ
- ④ バス運行情報へのアクセス方法（QRコード等）
- ⑤ 周辺施設情報 など

なお、利用しやすさ等を考慮して作成をすすめます。

イメージは右写真、下図の通りです。



写真-2 バス時刻表、案内パンフレット事例（八戸市）